

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月5日(金)
 児 童 4年1組 男子11名 女子10名(6校時)
 4年2組 男子13名 女子 9名(5校時)
 指導者 高橋 満智子
 藤原 正臣

- 1 単元名 登場人物の気持ちの移り変わりを読み取ろう
 教材名 「ごんぎつね」 副教材名 「手ぶくろを買いに」

2 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動	第4学年 「読むこと」(2)ウ 「中心人物になりきって日記を書き、全校に本を紹介しよう。」
言語活動の説明	中心人物の気持ちの移り変わりを読み取り、日記をつける。 <情報解釈力に関わって> 場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを想像しながら読むことによって、教材文の内容を理解する。 <自己活用力に関わって> 読み取って想像した気持ちの移り変わりを、登場人物になりきって日記形式でまとめ、交流する。
必要とされる知識・技能	① 作品名 ② 作者名 ③ 場面の様子の変化(時・場所・人物) ④ 中心人物 ⑤ 視点(話者) ⑥ あらすじ ⑦ 登場人物の気持ちの変化(行動・会話などから)

3 単元について

(1) 児童について

子どもたちはこれまで「読むこと」の文学的文章の学習において、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちについて、叙述を基に想像して読む学習をしてきた。「白いぼうし」の学習においては、会話や行動から登場人物の人柄について想像して読む学習を行った。その際、シリーズ作品として他の作品を読み、紹介し合う言語活動を設定し、登場人物の「松井さん」の人柄を他の作品と関連させながら読み取る力を身に付けることができた。「一つの花」の学習においては、大事な言葉に着目したり、場面を対比させたりしながら登場人物の様子や気持ちを想像して読む学習を行ってきた。その際、同じテーマの本を読んで読書会を開く言語活動を設定し、共通のテーマから時代背景を想像し、登場人物の気持ちなどを想像する力を身に付けさせることができた。

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちについて、叙述を基に想像して読む力が身に付いてきた子どもたちに次に身に付けさせたいのは、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを読み取る力である。登場人物の性格を想像する力に比べて、場面が移り変わる毎に登場人物の気持ちに変化していつていることを捉える力は十分とは言えないのが子どもたちの実態である。

【身に付けさせたい力】

- 場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを関連させながら、叙述を基に想像して読む力。

(2) 教材について

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。

本教材には、中心人物である「ごん」の視点で多くが書かれており、「ごん」の気持ちやその変化がとらえやすく、場面の展開に沿って、人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい作品といえる。

また、「時」や「場所」の設定に着目すると、場面分けが明確に成されており、それぞれの場面における登場人物の気持ちを関連させながら読むことによって気持ちの変化に気付き、読みを深めることができる考える。

(3) 指導にあたって

児童の実態や教材の特性から本単元で子どもたちに身に付けさせたい力を、「場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを関連させながら、叙述を基に想像して読む力」と考えた。

本教材は、「時」や「場所」の設定に着目した場面の展開に沿って、登場人物の行動や会話から、登場人物の性格を捉え、気持ちの変化を想像して読む学習に適している。第一次で、場面分けして書かれた日記のモデルを読み、本単元の見通しを持たせる。第二次では、「ごん」の立場で日記を書かせることを通して、物語の展開や気持ちの変化を押さえていく。その際、第三次で主体的に日記を書くために必要となる、叙述に即した行動や会話から想像した気持ちを乗せた日記の書き方や中心人物や視点（話者）の捉え方を指導する。第三次で、第二次の学習を生かして、「手ぶくろを買いに」の「子ぎつね」の気持ちの変化を主体的に読み取っていくことができるよう指導する。

これらの点に留意しながら指導することにより、子どもたちに「場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを関連させながら、叙述を基に想像して読む力」が身に付くものと考えている。

4 単元の指導目標

◎場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを叙述を基に想像して読むことができる。

「読むこと」(2)ウ

○文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。 「読むこと」(2)オ

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちに関心を持ち、叙述を基に想像して読み取り、なりきって日記をつけようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを叙述を基に想像して読んでいる。(2)ウ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いている。(2)オ 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)イ(ア)

6 指導計画及び評価規準 (「読むこと」 14時間)

次	時	学習活動	□評価規準 ◇身に付ける知識・技能	身に付けさせたい力と そのために用いる手立て				
				課題設定力	資料活用力	情報解釈力	自己活用力	相互交流力
一	1	○これまでの本の紹介の仕方を想起させながら、教師のモデル日記を読み、中心人物になりきって日記を書き、それをもとに本を紹介するという新たな本の紹介の仕方に興味を持つ。 ○「中心人物になりきって日記を書き、全校に本を紹介しよう」という学習課題を設定する。 ○教師のモデル日記から、学習課題を達成するための学習計画を立てる。	□中心人物になりきって日記を書くために必要な知識・技能を理解し、それに取り組もうとしている。 【関】 知識・技能 ①作品名 ②作者名 ③場面の様子の変化(時・場所・人物) ④中心人物 ⑤視点(話者) ⑥あらすじ ⑦登場人物の気持ちの変化(行動・会話などから) ◇①作品名 ②作者名	○学習計画・知識技能				
二	2	○「ごんぎつね」を読み、場面設定や物語全体のあらすじをつかむ。	□根拠を明らかにしながら、文章全体を大まかに捉えることができる。【読】 ◇③場面の様子の変化(時・場所・人物) ⑥あらすじ			○言葉の抽出・言葉の根拠		
	3・4	○視点を意識した日記の書き方を知る。 ○いたずらをするごんの気持ちを読み取る。	□登場人物の行動や会話などから、登場人物の性格を把握し、場面の移り変わりとともに変化する気持ちを、関連させながら叙述を基に想像して読んでいる。【読】 ◇③場面の様子の変化(時・場所・人物) ④中心人物 ⑤視点(話者) ⑥あらすじ ⑦登場人物の気持ちの変化(行動・会話などから)			○言葉の抽出・記述する時間と場・言葉を根拠・言葉の役割	○目的にそつたまとめ・解釈したことを蓄積	○読みを明確
	5・6	○兵十に撃たれるごんの気持ちを読み取る。						
	7本時・8	○いたずらをしてから兵十に撃たれるまでのごんの気持ちを読み取る。						
	9	○日記をもとに、感じたこと・考えたことを交流する。	□自分の考えを広げるという目的を理解し、感じたこと・考えたことを交流している。【関】 □日記をもとに交流し、自分の読みとの共通点や相違点を見つけ、読みを深める。【読】					○読みの整理
三	10・11	○「手ぶくろを買いに」を読み、場面設定やあらすじをつかむ。 ○前半部分の子ぎつねの気持ちを読み取る。	□根拠を明らかにしながら、文章全体を大まかに捉えることができる。【読】 □登場人物の行動や会話などから、登場人物の性格を把握し、場面の移り変わりとともに変化する気持ちを、関連させながら叙述を基に想像して読んでいる。【読】 ◇③場面の様子の変化(時・場所・人物) ④中心人物 ⑤視点(話者) ⑥あらすじ ⑦登場人物の気持ちの変化(行動・会話などから)	○学習したこと活用の活用		○第二次と同様	○第二次と同様	○第二次と同様
	12本時・13	○後半部分の子ぎつねの気持ちを読み取る。						
	14	○日記をもとに、感じたこと・考えたことを交流する。	□自分の考えを広げるという目的を理解し、感じたこと・考えたことを交流している。【関】 □日記をもとに交流し、自分の読みとの共通点や相違点を見つけ、読みを深める。【読】					○読みの整理

7 本時の指導（4年2組 第二次第7時）

(1) 本時の目標

いたずらをしてから兵十に撃たれるまでのごんの気持ちになりきって、日記を書く。

(2) 本校の研究に関わって

情報解釈力 「教材文を課題に即して詳しく読み、書かれている意味や内容、構造、意図などを把握する力」



中学年 「課題に合った箇所を見つけて引用、要約したりしながら、語や文をもとに課題に合った読み取りができる。」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つかむ 5分	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごんがいたずらをした後、どんな気持ちで兵十に会いに行っていたのかが分かるように、「ごんのつぶやき日記」を書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までにいたずらした場面のごんの気持ちや最後に兵十に撃たれる場面のごんの気持ちを把握して日記で書き溜めてきたことを押さえ、本時は、その間の一場面を選んで、日記に書くことを確かめる。 本時で身に付ける知識・技能は、③場面の様子の変化、④中心人物、⑤視点（話者）、⑥あらすじ、⑦登場人物の気持ちの変化であることを理解する。 本時は、いたずらをしてから、兵十に撃たれるまでの場面から選択となるので、書きたい場面を選ばせておく。
ふかめる 35分	<p>3 叙述を基に、ごんの気持ちを想像し、考えたことをワークシートに書き込む。</p> <p>○「自分が選んだ場面について、ごんの気持ちが分かる言葉に線を引きましょう。ここのごんはどんな気持ちでしょうか。」</p> <p>4 読み取ったことを基に、自分が選んだ場面の「ごんのつぶやき日記」を書く。</p> <p>○「ごんの気持ちになりきって、自分が選んだ場面を日記に書きましょう。」</p> <p><日記を書く視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 日付、出来事、思ったことや考えたこと 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文全文提示。 本文からごんの気持ちが分かる行動や会話にサイドラインを引かせ、どんな気持ちだったのか、叙述を基に想像させ、書き込ませる。 これまでの場面と比較させながら、気持ちが分かる表現を見付け、確認させる。 ワークシートに書き込むことができた児童から、主体的に日記を書く活動に移行させたい。 時系列に沿って、日記を書かせる。 場面と場面とのつながりを意識させるために、日記の書き方の表現を工夫させる。 ごんになりきって書くために、言葉の語尾などにも注意させる。 <p style="text-align: right;">【言葉を根拠にした読み取り】</p>
まとめる 5分	<p>5 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>6 次時の学習内容をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までと違い、本時は、自分たちの力で登場人物の行動や会話から、性格や気持ちの変化を捉えることができたことを振り返り、価値付けたい。 次時は、続きを完成させ、書き溜めてきた日記とつなげさせてみる。

(4) 本時の評価規準

いたずらをしてから兵十に撃たれるまでのごんの気持ちになりきって、日記を書くことができる。

【読(ウ)】

8 本時の指導（4年1組 第三次第12・13時）

(1) 本時の目標

場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを日記に書く。

(2) 本校の研究に関わって

自己活用力 「身に付けた技能や読み取ったことに自分の思いや考え、生活経験などを加えて目的や課題を達成する形にまとめる力」



中学年 「身に付けた技能や読み取ったことをもとに思いや考えを課題に合った方法でまとめることができる。」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つかむ 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を把握する。 子ぎつねがどんな気持ちで手ぶくろを買いに行ったのかが分かるように、「子ぎつねのつぶやき日記」を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> 物語の時・場所・人物の確認を行い、行動や会話からとらえた子ぎつねの性格を想起させる。 「手ぶくろを買いに」の子ぎつねになりきって日記を書くことを確認し、完成した作品を全校に発信するという意識付けを改めて行う。 課題は本時、次時の2時間続きとする。
ふかめる 35分	3 身に付けてきた知識・技能をもとに、子ぎつねになりきって日記を書く。 ○「この絵はどんな場面ですか。」 ○「1まい目の絵の子ぎつねは、どんな気持ちでいますか。」 4 日記を読み合い、自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> 子ぎつねの行動を追いながら、叙述から想像できる子ぎつねの気持ちを考えさせていく。 場面の移り変わりを捉え、それとともに子ぎつねの気持ちがどのように変化していったのかを書くことを確認する。【解釈したことの想起、自分の考えを蓄積していたものを活用】 友達のことを聞いて、自分が書いた日記の参考とする。
まとめる 5分	5 学習をふり返る。 6 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを日記に書くことができたかふり返る。 次時は自分の考えが深まった部分を加えながら日記の続きを書き、完成させることを知る。

(4) 本時の評価規準

場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを日記に書くことができる。【読 (ウ)】